

## リスクリングに関する千葉県内企業の意識調査（2024 年）

## リスクリングに取り組んでいる企業 8.0%にとどまる ～時間や人材などリソース不足と、モチベーションの維持が課題に～

### はじめに

人手不足が深刻化するなか、「人への投資」による生産性向上は、企業経営にとって看過できないテーマとなっている。賃上げ機運が高まり、人材の確保・定着に欠かせない賃上げ原資を確保するためには、1人当たりの労働生産性を高めることが求められている。

リスクリングとは、「新しい職業に就くために、あるいは今の職業で必要とされるスキルの大幅な変化に適応するために、必要なスキルを獲得する/させること」であり、世界経済フォーラムにおいては、2018年から3年連続でリスクリングセッションが開催された。日本では「骨太の方針」に盛り込まれ、2022年に岸田前首相がリスクリング支援として5年間で1兆円を投じると表明したことを皮切りに、政府も助成金などのあらゆる支援策を積極的に講じている。石破首相の所信表明演説でもその重要性が触れられるなど、近年はより一層注目度が高まっている。

帝国データバンクは、リスクリングに対する企業の取り組み状況やその内容、課題について調査を実施した。

※調査期間は2024年10月18日～10月31日。調査対象は全国2万7008社、千葉県内766社、有効回答企業数は全国1万1133社（回答率41.2%）、千葉県311社（同40.6%）。

### 調査結果（要旨）

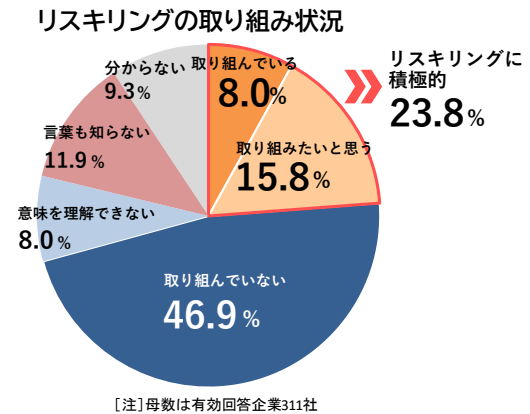
1. リスクリングに「取り組んでいる」県内企業は8.0%、今後「取り組みたいと思う」企業は15.8%となり、リスクリングに「積極的」な意欲を示した企業は23.8%
2. リスクリングの取り組み内容、「従業員のスキルの把握、可視化」が51.4%で最も高く、「経営層から従業員に学習が必要なスキルを伝達」も43.2%となり、高水準で続いた
3. リスクリングに取り組む際の課題、時間や人材、ノウハウ、費用などのリソース不足が浮き彫りに。一方、リスクリングに取り組んでいる企業においては、「従業員のモチベーションの維持が難しい」（44.0%）がトップ

### 1. リスクリングに取り組んでいる企業は8.0%にとどまる

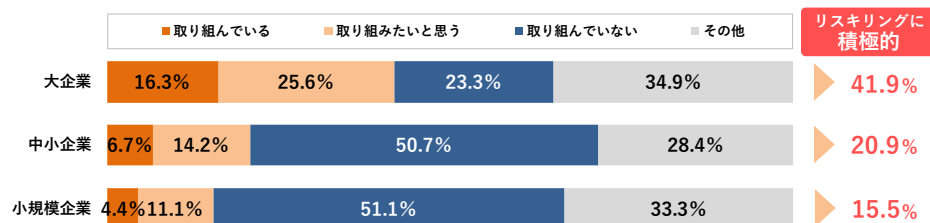
リスクリングに関する取り組み状況について尋ねたところ、「取り組んでいる」と回答した県内企業は8.0%にとどまった。また、今後「取り組みたいと思う」は15.8%で、合計した「リスクリングに積極的」である企業の割合は23.8%となった。

一方、「取り組んでいない」は46.9%にのぼり、半数近くが消極的であるといえる。加えて、「意味を理解できない」（8.0%）、「言葉も知らない」（11.9%）がそれぞれ約1割にのぼっており、現時点でリスクリングへの取り組みは十分とはいえないことが分かった。

また、リスクリングの取り組み状況を企業の規模別でみると、大企業では「取り組んでいる」企業が16.3%だった一方、中小企業では6.7%、小規模企業では4.4%にとどまった。今後「取り組みたいと思う」の割合も、大企業（25.6%）が中小企業（14.2%）を大幅に上回った。これにより、「リスクリングに積極的」な企業は、「大企業」が41.9%、「中小企業」が20.9%となり、約2倍の差が出た。



### リスクリングの取り組み状況 規模別

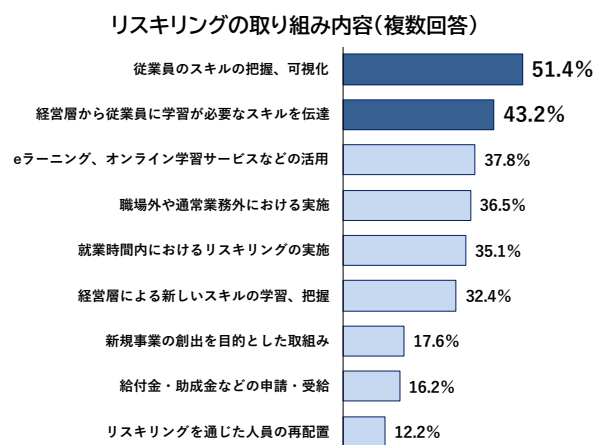


[注] 「その他」は、「意味を理解できない」「言葉も知らない」「分からない」の合計。小数点第2位以下を四捨五入しているため、合計は必ずしも100とはならない

### 2. リスクリングの取り組み内容は「従業員のスキルの把握、可視化」が51.4%で最多

リスクリングに「積極的」（取り組んでいる/取り組みたいと思う）な県内企業に対して、その内容を尋ねたところ、新たな人材の発掘につながる「従業員のスキルの把握、可視化」が51.4%で最も高かった。

次いで、「経営層から従業員に学習が必要なスキルを伝達」（43.2%）、「eラーニング、オンライン学習サービスなどの活用」（37.8%）、「職場外や通常業務外における実施」（36.5%）、「就業時間内におけるリスクリングの実施」（35.1%）、「経営層による新しいスキルの学習、把握」（32.4%）、「新規事業の創出を目的とした取り組み」（17.6%）、「給付金・助成金などの申請・受給」（16.2%）、「リスクリングを通じた人員の再配置」（12.2%）



[注] 母数は、リスクリングに「積極的」と回答した74社

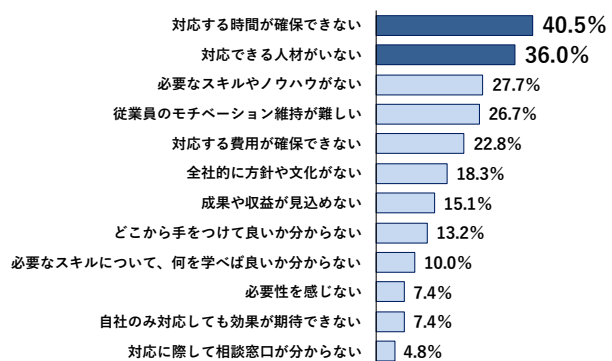
グの実施」（35.1%）、「経営層による新しいスキルの学習、把握」（32.4%）が続き、30%を超えた。他方、政府が積極的に講じている「給付金・助成金などの申請・受給」は16.2%と低位だった。

### 3. リスクリングに対する課題は時間と人材の確保

リスクリングに取り組む際の課題について尋ねたところ、「対応する時間が確保できない」（40.5%）、「対応できる人材がない」（36.0%）が30%を超えた。

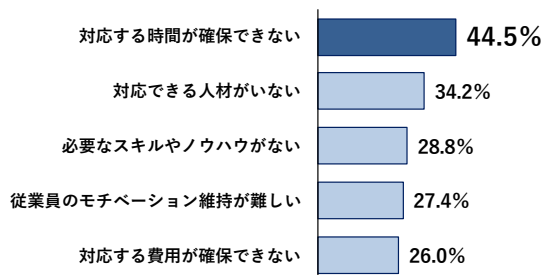
また、「取り組んでいない」企業と「取り組んでいる」企業それぞれにおける課題を分析すると、「取り組んでいない」企業においては、時間・人材・ノウハウ・費用などのリソース不足が課題となっていた。他方、「取り組んでいる」企業においては、従業員のモチベーション維持に課題がある企業が多く見られた。

リスクリングに取り組む際の課題（複数回答）

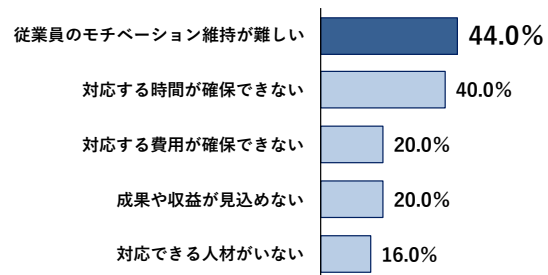


【注】母数は、有効回答企業311社

「リスクリングに取り組んでいない」



「リスクリングに取り組んでいる」



### 今後の見通し：リーダーの推進力が欠かせないリスクリング

企業の多くが従業員不足を感じており、人手不足は慢性化している。そのなかで、政府が掲げている「人への投資」の大本命ともいえるリスクリングに取り組んでいる県内企業は8.0%と一部にとどまり、企業規模によって取り組み状況には差がみられた。

リスクリングに取り組む際の課題については、取り組みの有無で違いがみられ、取り組んでいない企業は時間や人材、ノウハウ、費用などのリソース確保が難しく、取り組んでいる企業ではモチベーションの維持が課題となっている現状が浮き彫りとなった。

リソースの確保やモチベーションの維持といった課題の解決には、経営層を中心としたリーダー層による取り組みの推進が必要で、リーダー層が意思決定を行ったうえで率先して取り組むことが導入部分においては欠かせない。

また、多くの企業から「新しい技術や知識の習得により、ほかの業界・会社への転職が容易に行えるようになることに危機感がある」という懸念の声が聞かれる。しかし、デジタル時代が急速に進展するなか、リスクリングに取り組まないリスクにも目を向ける必要があろう。DXなどの新たなテクノロジーに対応できる人材を育成しながら労働生産性を高め、事業を発展させられるかどうかは企業の将来を大きく左右するといえるだろう。

株式会社帝国データバンク 千葉支店 支店長 湯田 国彦

【内容に関する問い合わせ先】 担当:竹内 基

TEL 043-221-0404 FAX 043-227-5205

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。

著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。